

◆ 研究の対象となる方

2014 年 1 月から 2025 年 9 月までの期間に、くも膜下出血の診断で破裂脳動脈瘤に対してコイル塞栓術を施行した方

◆ 目的・方法

くも膜下出血のあとには、血管が細くなって脳の血流が悪くなる「脳血管攣縮」という状態が起こることがあります。これは脳に新たな障害を起こす原因となり、回復にも影響します。

前脈絡叢動脈という血管は、脳の深い部分に血液を送る大切な血管です。この血管の太さの変化が、脳血管攣縮や水頭症（脳に水がたまる状態）と関係している可能性があります。

私たちは、くも膜下出血を経験された方の画像検査を用いて、この血管の太さの変化と病気の関係調べます。これは診療の一環で行われた検査結果をもとにした研究であり、新たな検査や治療が加わるものではありません。

本研究では、破裂した脳動脈瘤に対して急性期にコイル塞栓術（血管の中から動脈瘤を詰める治療）を受けられた患者さんを対象とし、治療の際に行われた脳血管造影検査と、発症から約 2 週間後に行われたフォローアップ検査を用いて、動脈瘤と同じ側の前脈絡叢動脈の太さを測定します。そして、その変化が脳血管攣縮や正常圧水頭症の発症と関係しているかを解析します。

◆ 研究に使用する情報

本研究では、診療の一環として行われた以下の情報を利用します。いずれも新たに検査や処置を行うものではなく、通常の診療で得られたデータを整理して研究に用いるものです。

患者さんの基本情報：年齢、性別、これまでの病気の既往歴

病気の状態：くも膜下出血の重症度、破裂した脳動脈瘤の場所

画像検査の結果：脳血管造影検査（コイル塞栓術を行ったときの画像を含む）、MRI 検査データ、CT 検査データ等

◆ 個人情報の取り扱い

本研究の成果は学会等での公表を予定しておりますが、個人が特定されないよう加工した情報を用いますので、プライバシーは守られます。また、本研究以外の目的で使用することはありません。

◆ 研究への協力について

診療情報等が本研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象といたしません。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することができます。

本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

問い合わせ先	福岡県済生会福岡総合病院 脳神経外科 大津 裕介 住所：福岡市中央区天神 1-3-46 電話：092-771-8151（代表）
--------	--